

保健室だより 平成28年度第12号 千葉県立千葉南高校保健室

性別違和ということ

今年の12月は私がライフワークとしている「性と生」に関する研修会・学会などを通して、新たな出会いがたくさんあった。その中で、今回はご自身が性同一性障害（GID）である、井上健斗さんのお話をみんなに知ってほしいので書くね。

井上さんがステージに登場した時「うわ～、すごいイケメン！」とおぼさんの私でも思ってしまうお姿にまずびっくり。そして元は由加ちゃんというお名前だったと聞いて、さらにびっくり。24歳の時に、タイで性別適合手術を受けたとのことだけど、タイの技術水準は高く、術前術後ケアの方法も整備されている。

彼はすごく幼い頃から性別に対する違和感があった。中学入学の時に、初めてスカートをはかされショックを受けた。制服がパンツかスカートか選べたり、制服自体がなかったらもっと苦しまずに済んだと思うと話されていた。手術後に生まれて初めて海パン一つで海に入った時、嬉しすぎて泣いちゃったんだって。それまでの人生では「自分らしく生きる」ことが当たり前にはできない苦しみをずっと背負ってきたんだね。

タイで手術を受けるとなると、まず日本人には言葉の壁があるよね。そういう井上さんご自身の体験から、どんなサポートがあったら助かるかを考え、手術だけでなく、戸籍変更、不妊治療のサポートまでしてくれる会社を作っちゃったんだ。『今困っている人のため』に必要なことを次々と実現させていく彼の行動力は素晴らしいと思ったよ。「新しい家族のかたち」を認め合える社会が、ありのままの自分で生きられるためのキーワードなのかもしれないね。

LGBT（いわゆる性的少数者）は見た目ではわからないところが困ること。盲導犬を連れていたら目のご不自由なのかなとわかるけど、LGBTは自分で自己申告しなければわかってもらえないのが辛い。またすごく頑張ってもカミングアウトしても、もしも周囲が自分を見る目が変わってしまったら…と考えると、そう簡単には一步を踏み出すことができない。でも性的少数者とは言っても日本では900万人以上がLGBTだそうで、これは「佐藤」「鈴木」「高橋」「田中」の多い名字ベスト4を足した数より多いということになるそうなんだ。「身体の性」「心の性」「恋愛の性」の組み合わせのグラデーションは計り知れないほどあるのはすでに常識。海外の多くの国では「性同一性障害」ではなく、「性別違和（GD…ジェンダー・ディスフォリア）」と呼ばれ、障害ではないという考えが当たり前になっている。

LGBTだけでなく、いろんな個性や悩みを持ってみんなは集団生活を送っているよね。どうしたら、過ごしやすい環境づくりができると思う？井上さんは「ウェルカミングアウト」というオープンな姿勢でいることで、多くの人が救われるんじゃないかなと言ってたよ。いろんな人がいるから面白い。学校がお互いを認め合える場であれば、自他ともに居心地のいい南高になるのではないかな。

感染性胃腸炎の警報が出ています

御存知のとおり、感染性胃腸炎はノロウイルスをはじめとした感染症で出席停止となる疾患です。ひどい下痢と嘔吐の症状が出たら、無理して登校せず、まずは病院に行って診断してもらってね。もしその病気だったら、回復するまで自宅で安静にして、よくなったら登校許可証明書を病院で書いてもらい、それを持って登校してください。証明書の用紙の入手方法等、出席停止に関する手続きは生徒手帳を参照してくださいね。

学校管理下で怪我をして病院に行った人へ

スポーツ振興センター災害給付金請求手続きはしましたか？保健室に書類があるので、病院へ行ったならば早く申請に来てください。時効は怪我をした日から2年です。リハビリを含めて2年近くかかり、それを一度にまとめて請求しようとする、すでに時効となってしまう可能性があります。だからまず第1回目の請求は急げ！

3年生で卒業後、学校に届け出た銀行口座を変更したい場合は、事務室にご相談ください。